

嬉野権現前町において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

嬉野権現前町

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 1 経営体

個人 0 経営体

集落営農（任意組織） 0 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

地域の農業については、営農組合が経営体となり当地域としては、組合の一本化を目指す。取組事項：生産品目の明確化、6次産業化として、大根、枝豆等の加工生産に取り組む。

星合町において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

星合町

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 3 経営体

個人 2 経営体

集落営農（任意組織） 0 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

法人化した集落営農組織に集積・集約化し、農作業の効率化を図る。

藤之木町において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

藤之木町

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 2 経営体

個人 0 経営体

集落営農（任意組織） 0 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

法人化している集落営農組織に集積・集約化し、農作業の効率化を図る。

早馬瀬町において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

早馬瀬町

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 0 経営体

個人 3 経営体

集落営農（任意組織） 0 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

地域で定めた中心経営体（認定農業者）に集積・集約化し、農作業の効率化を図る。

目田町において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

目田町

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 0 経営体

個人 2 経営体

集落営農（任意組織） 0 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

地域で定めた中心経営体（認定農業者）に集積・集約化し、農作業の効率化を図るとともに担い手の変化に注意が必要。

小作料として納める現物に一部高齢者農家の注文（保冷库の掃除・積み替えを要求）が酷く、企業努力の必要性がより増えた。

又、農業従事者の高齢化に伴う遊休農地の発生を防止する為、認定農業者若しくはそれに準ずる者を農家の希望に応じ対応したい。

農振区域における自治会世帯の減少（主に農家住宅・分家住宅しか建築できない為）と農業従事者の減少で構造変化に即した保全管理が限度となってきた。

今後、自治会世帯についても減少の歯止めをかけないと小学校が無くなる等、地域全体の問題となる。前回調査時より幼稚園が廃園となった。

農振区域のありかたについても地域別に一考するべき。

横地町において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

横地町

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 0 経営体

個人 2 経営体

集落営農（任意組織） 0 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

地域で定めた中心経営体（認定農業者）に集積・集約化し、農作業の効率化を図る。

法田町において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

法田町

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 0 経営体

個人 2 経営体

集落営農（任意組織） 0 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

地域で定めた中心経営体（認定農業者）に集積・集約化し、農作業の効率化を図る。
又、農業従事者の高齢化に伴う遊休農地の発生を防止する為、認定農業者若しくはそれに準ずる者を農家の希望に応じ対応したい。

農振区域に於ける自治会世帯の減少（主に農家住宅・分家住宅しか建築できない為）と農業従事者の減少で構造変化に即した保全管理が限度となってきた。

今後、自治会世帯についても減少の歯止めをかけないと幼稚園・小学校が無くなる等、地域全体の問題となる。農振区域の在り方についても地域別に一考すべきこと。

伊勢場町において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

伊勢場町

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 0 経営体

個人 2 経営体

集落営農（任意組織） 0 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

地域で定めた中心経営体（認定農業者）に集積・集約化し、農作業の効率化を図る。

又、農業従事者の高齢化に伴う遊休農地の発生を防止する為、認定農業者若しくはそれに準ずる者を農家の希望に応じ対応したい。

農振区域に於ける自治会世帯の減少（主に農家住宅・分家住宅しか建築できない為）と農業従事者の減少で構造変化に即した保全管理が限度となってきた。

今後、自治会世帯についても減少の歯止めをかけないと幼稚園・小学校が無くなる等、地域全体の問題となる。農振区域のありかたについても地域別に一考すべきこと。

稲木町において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

稲木町

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 0 経営体

個人 3 経営体

集落営農（任意組織） 0 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

地域で定めた中心経営体（認定農業者）に集積・集約化し、農作業の効率化を図る。

又、農業従事者の高齢化に伴う遊休農地の発生を防止する為、認定農業者若しくはそれに準ずる者を農家の希望に応じ対応したい。

農振区域に於ける自治会世帯の減少（主に農家住宅・分家住宅しか建築できない為）と農業従事者の減少で構造変化に即した保全管理が限度となってきた。

今後、自治会世帯についても減少の歯止めをかけないと幼稚園・小学校が無くなる等、地域全体の問題となる。農振区域のありかたについても地域別に一考するべきこと。

高木町において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

高木町

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 0 経営体

個人 2 経営体

集落営農（任意組織） 0 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

地域で定めた中心経営体（認定農業者）に集積・集約化し、農作業の効率化を図るとともに担い手の変化に注意が必要。

小作料として納める現物に一部高齢者農家の注文（保冷库の掃除・積み替えを要求）が酷く、企業努力の必要性がより増えた。

又、農業従事者の高齢化に伴う遊休農地の発生を防止する為、認定農業者若しくはそれに準ずる者を農家の希望に応じ対応したい。

農振区域に於ける自治会世帯の減少（主に農家住宅・分家住宅しか建築できない為）と農業従事者の減少で構造変化に即した保全管理が限度となってきた。

今後、自治会世帯についても減少の歯止めをかけないと小学校が無くなる等、地域全体の問題となる。前回調査時より幼稚園が廃園となった。

農振区域のありかたについても地域別に一考するべき。

機殿下地区（魚見・川島・東久保）において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

機殿下地区（魚見・川島・東久保）

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 0 経営体

個人 2 経営体

集落営農（任意組織） 0 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

地域の中心経営体に集積・集約化し、農作業の効率化を図る。

殿村町において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

殿村町

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 0 経営体

個人 1 経営体

集落営農（任意組織） 1 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

殿村営農組合では組合員各々が持つ農地に関して、共同の農業用機械を使用し、農作業の効率化を図っている。今後もこの方針を継続し、独力で農業を続けるのが難しくなる方に対しては農作業の一部を請け負い、耕作放棄地とならないよう助け合い農業を続けていく。

また年々変わっていく状況に対応していくため、定期的に話し合いの場を設け、現状の問題を把握し将来の目標を共有していく。

嬉野田村町（下瀬古）において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

嬉野田村町（下瀬古）

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 1 経営体

個人 1 経営体

集落営農（任意組織） 0 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

取組事項：複合化、6次産業化。

既存の認定農業者1名と地域の集落営農組織（農事組合法人サンライズ嬉野）を地域の中心となる経営体と位置づけ、農地の集積を促進する。法人では、農地集積により生ずる余剰労力を活用し、いちご、野菜の栽培で生産拡大をはかる。また、収穫した作物を食品加工（ジャム、漬物等）し、直売を行うなど6次産業化をめざす。

朝田町において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

朝田町

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 1 経営体

個人 2 経営体

集落営農（任意組織） 0 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

地域の中心経営体に集積・集約化し、農作業の効率化を図る。

立田町において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

立田町

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 1 経営体

個人 2 経営体

集落営農（任意組織） 0 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

地域の中心経営体に集積・集約化し、農作業の効率化を図る。

和屋町において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

和屋町

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 1 経営体

個人 5 経営体

集落営農（任意組織） 0 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

朝見上地区（朝田・立田・和屋地区）は、土地改良事業の工事期間が長く（既に10年以上を要している）、その間、国・県・市の農業諸施策に協力をしてきた。

今般の「中心経営体農地集積促進事業」は、土地改良事業にかかる地元負担金返還について、少しでも土地所有者の負担を軽減する意味において在り難い制度と考えている。

今後、地域を担う農業者を育成するために、将来の地域の「担い手育成」に繋げる為にも、地域で稲作を継続したい農家の希望がある限り、その意向を汲みあげる対応をお願いする。

一方的に、農地集積率が中心経営体を主体に動くことになれば、益々稲作が制限され地域の意欲ある中核的農家の芽を摘むことにも繋がりがねなく、牽いては地域の農業環境を守る主体をなくすことにもなるので、こうした耕作者については中心経営体集積率に加味していただくようお願いする。

大平尾町において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

大平尾町

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 2 経営体

個人 7 経営体

集落営農（任意組織） 0 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

農地の形状・面積を整理したうえで、地域の中心経営体に集積・集約化し、農作業の効率化を図る。

嬉野島田町において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

嬉野島田町

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 1 経営体

個人 1 経営体

集落営農（任意組織） 1 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

今まで地域の中心となる担い手がいたが、高齢のため、その方から引き継ぐ形で集落営農を組織化する予定である。今後集落営農を中心に農業を維持し、農地を集約していく。また、その集落営農ものちの法人化を目指す。

嬉野八田町において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

嬉野八田町

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 2 経営体

個人 1 経営体

集落営農（任意組織） 0 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

農業経営について、できる限り現状維持していく予定だが、後継者の問題があり、農業をリタイア・経営転換する人は、原則として農地中間管理機構に貸し付け、地域の中心となる経営体に農地の集積を促進する。

広瀬町において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

広瀬町

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 0 経営体

個人 1 経営体

集落営農（任意組織） 1 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

拡大する猿・猪等の獣害対策について、農産物の被害防止及び生産意欲の減退を防ぐために、集落が一体となった取り組みを進める。

嬉野滝之川町において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

嬉野滝之川町

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 1 経営体

個人 0 経営体

集落営農（任意組織） 0 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

農業者の減少、高齢化、後継者等数多くの問題があるが、現在のところ農業経営について、できる限り現状維持していく予定である。農業をリタイア・経営転換する人は、原則として農地中間管理機構に貸し付け、地域の中心となる経営体に農地の集積を促進する。

新松ヶ島町環境保全会において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

新松ヶ島町

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 0 経営体

個人 8 経営体

集落営農（任意組織） 0 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

地域の中心経営体に集積・集約化し、農作業の効率化を図る。

西野町山口（集落協定）において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

西野町山口（集落協定）

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 0 経営体

個人 3 経営体

集落営農（任意組織） 1 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

地域の中心経営体に集積・集約化し、農作業の効率化を図る。

野生鳥獣のすみかとなる耕作放棄地の発生抑制に努め、営農活動の維持・継続を図る。

矢津町古茂喜（集落協定）において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

矢津町古茂喜（集落協定）

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 0 経営体

個人 2 経営体

集落営農（任意組織） 1 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

地域の中心経営体に集積・集約化し、農作業の効率化を図る。

野生鳥獣のすみかとなる耕作放棄地の発生抑制に努め、営農活動の維持・継続を図る。

矢津町大広（集落協定）において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

矢津町大広（集落協定）

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 0 経営体

個人 0 経営体

集落営農（任意組織） 1 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

地域の中心経営体に集積・集約化し、農作業の効率化を図る。

野生鳥獣のすみかとなる耕作放棄地の発生抑制に努め、営農活動の維持・継続を図る。

下茅原において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

下茅原

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 0 経営体

個人 2 経営体

集落営農（任意組織） 1 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

地域の中心経営体に集積・集約化し、農作業の効率化を図る。

新田／中原において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

新田／中原

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 0 経営体

個人 0 経営体

集落営農（任意組織） 1 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

土壌など、その地域の特性にあった稲作を中心とする農業経営を推進する。

この場合、県農業技術研究所などによるこの地域に合った新しい稲の品種改良が望まれる。（特A：ブランド化が必要）

我々の地域では、土壌などに関係なくコシヒカリを作付けしているが野菜作りに向いているところ、或いは、稲作に向いているところがあるため、稲作に適したところで商品価値の高い酒米等の作付けを検討する必要があると考えている。

嬉野新屋庄町において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

嬉野新屋庄町

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 1 経営体

個人 0 経営体

集落営農（任意組織） 1 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

地元の法人と集落営農組織を地域の中心となる経営体と位置づけ、農地の集約を促進する。また、年々変わる農業情勢に対応していくため、定期的に話し合いの場を設ける。

嬉野一志町において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

嬉野一志町

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 1 経営体

個人 0 経営体

集落営農（任意組織） 0 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

地元の担い手を中心となる経営体と位置づけ、農地の集積を促進する。

嬉野下之庄町において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

嬉野下之庄町

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 2 経営体

個人 2 経営体

集落営農（任意組織） 0 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

取組事項：6次産業化、新規就農の促進。

・農地利用者の選定順位

①下之庄地内に本拠地を持ち、堅実な経営を行っている農業者

②豊地地区内に本拠地をもつ堅実な農業の経営体

③松阪市内に本拠地をもつ堅実な農業の経営体

・地域内農業者の育成

下之庄地内でも健全な農業者が育つよう農地の貸付には留意し、行政及び中間管理機構にはその方策を期待する。

・農振農用地のフル活用

昭和50年に整備された優良農地に野菜の栽培を定着させ、この農産物を基に農業の6次産業化を図りたい。

・その他

従来からの農業者は担い手の経営がうまくいくように協力することが必要である。

笠松町において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

笠松町

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 3 経営体

個人 0 経営体

集落営農（任意組織） 0 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

取組事項：複合化。

集落営農組織に集積・集約化し、農作業の効率化を図る。

西肥留町において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

西肥留町

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 1 経営体

個人 0 経営体

集落営農（任意組織） 0 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

取組事項：複合化。

法人化した集落営農組織に集積・集約化し、農作業の効率化を図る。

大石谷棚田保全会（集落協定）において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

大石谷棚田保全会（集落協定）

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 0 経営体

個人 0 経営体

集落営農（任意組織） 1 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

今後耕作放棄地が急激に進行すると思われ結果鳥獣害特に獣害被害と相まって荒廃が進むのは明らかであり耕作中の農地の継続化、耕作放棄地予備軍の保全管理が行える組織の構築が当該棚田地区で取りえる最も有効な手段と思われる。

方向性としては、水路・農道維持管理、害虫駆除作業、獣害対策等出来ることから着実に実行していく方策を検討していく。

伊勢寺（集落協定）において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

伊勢寺（集落協定）

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 0 経営体

個人 1 経営体

集落営農（任意組織） 1 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

農業が困難になりそうな農地については、地域の中心経営体に集積・集約化し、耕作放棄地の発生防止に努めるとともに、農作業の効率化を図る。

柵・ネット等の設置により、野生鳥獣のすみかとなる耕作放棄地の発生を防止し、営農活動の維持・継続を図る。

岩内（集落協定）において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

岩内（集落協定）

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 1 経営体

個人 0 経営体

集落営農（任意組織） 1 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

農業が困難になりそうな農地については、地域の中心経営体に集積・集約化し、耕作放棄地の発生防止に努めるとともに、農作業の効率化を図る。

柵・ネット等の設置により、野生鳥獣のすみかとなる耕作放棄地の発生を防止し、営農活動の維持・継続を図る。

将来の営農活動の維持・継続を図るため、集落内で新たな担い手の育成を行う。

大阿坂（集落協定）において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

大阿坂（集落協定）

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 1 経営体

個人 1 経営体

集落営農（任意組織） 1 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

取組事項：新規就農の促進

農業が困難になりそうな農地については、地域の中心経営体に集積・集約化し、耕作放棄地の発生防止に努めるとともに、農作業の効率化を図る。

柵・ネット等の設置により、野生鳥獣のすみかとなる耕作放棄地の発生を防止し、営農活動の維持・継続を図る。

将来の営農活動の維持・継続を図るため、集落内で新たな担い手の育成を行う。

井口中において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

井口中

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 1 経営体

個人 0 経営体

集落営農（任意組織） 1 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

生産性の高い農業を確立するため、農業機械施設の能率的かつ円滑な活用を行う。

また、地域の中心経営体に集積・集約し、農作業の効率化を図る。

井口中（中河原）において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

井口中（中河原）

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 0 経営体

個人 1 経営体

集落営農（任意組織） 1 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

生産性の高い農業を確立するため、農業機械施設の能率的かつ円滑な活用を行う。

また、地域の中心経営体に集積・集約し、農作業の効率化を図る。

腹太町において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

腹太町

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 0 経営体

個人 1 経営体

集落営農（任意組織） 1 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

生産性の高い農業を確立するため、農業機械施設の能率的かつ円滑な活用を行う。

また、地域の中心経営体に集積・集約し、農作業の効率化を図る。

六根町において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

六根町

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 0 経営体

個人 1 経営体

集落営農（任意組織） 1 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

生産性の高い農業を確立するため、農業機械施設の能率的かつ円滑な活用を行う。

地域で位置付けた中心経営体に集積・集約化し、農作業の効率化を図る。

保津町において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

保津町

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 0 経営体

個人 1 経営体

集落営農（任意組織） 1 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

生産性の高い農業を確立するため、農業機械施設の能率的かつ円滑な活用を行う。

地域の中心経営体に集積・集約化し、農作業の効率化を図る。

久保田（地域保全会）において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

久保田（地域保全会）

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 0 経営体

個人 2 経営体

集落営農（任意組織） 0 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

◎今後、耕作放棄地となっている農地の解消や発生防止に努める。

◎地域の担い手に農地集積（6次産業化等を考えている農業者がいるので、その人たちを中心に集積。）を行っていくことで、地域農業の継続を図る。

◎アンケートを集計した結果、農地を集積する際、集落営農に集積していきたいという回答が多く存在する。この現状を踏まえ、今後集落営農の組織化を検討していく。

嬉野見永町（見永集落）において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

嬉野見永町（見永集落）

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 2 経営体

個人 0 経営体

集落営農（任意組織） 0 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

地元の担い手である法人2経営体に農地の集積を行っていく。

五主町において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

五主町

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 3 経営体

個人 0 経営体

集落営農（任意組織） 0 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

取組事項：複合化

法人化した集落営農組織に集積・集約化し、農作業の効率化を図る。

大足町において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

大足町

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 2 経営体

個人 2 経営体

集落営農（任意組織） 0 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

◎担い手に今後も集積・集約化していく。

◎アンケート結果を参考にすると、若い農業者が減少し、高齢化が進行していくとの回答等、今後の地域農業に関して不安を抱いている方が多数いる結果となった。また、地域農業を持続可能にしていくために集落営農へ集積していくとの回答もあった。なので将来的に地域として必要となれば、集落営農を組織していくことも検討していく。

美濃田町において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

美濃田町

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 1 経営体

個人 2 経営体

集落営農（任意組織） 1 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

取組事項：複合化

◎今後も地域の担い手に農地集積を行っていく。

◎酪農及び肉牛生産の地域特性を活かした農畜連携を、今後も継続していく。

◎将来的に新たな作物の導入や6次産業化を検討していく。

◎アンケートの集計結果を見ると、若い農業者が減少し、高齢化が進んでいるとの回答が多数あった。

美濃田営農組合を継続していくためにも、将来を担っていく若い農業者の発掘・育成を検討していく。

高須町において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

高須町

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 2 経営体

個人 2 経営体

集落営農（任意組織） 0 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

今後も地域の中心となる経営体に農地を集積していく。その中で、水利用の効率化や作物の適地適作等の課題を解消するための調整機能をどうするか、検討していく。

船江町において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

船江町

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 0 経営体

個人 2 経営体

集落営農（任意組織） 0 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

アンケートの集計結果を見ると、若い農業者の減少、高齢化が進行している現状に不安を抱いている回答が多数あった。（アンケート回答者の約9割の方が、60歳以上である。）また、集落営農や法人に集積することが地域農業を継続していく上で必要との回答も多数あった。集計結果を踏まえて、現在地域で存在している担い手へ集積・集約化していく。または地域で必要だと判断した場合は、集落営農の組織化を検討していく。

大石町棚田保全会（集落協定）において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

大石町棚田保全会（集落協定）

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 0 経営体

個人 0 経営体

集落営農（任意組織） 1 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

地域の中心経営体に集積・集約化し、農作業の効率化を図る。また、近年増加しつつある獣害被害の防止にも対応していく。

小片野町（北谷地区）において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

小片野町（北谷地区）

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 0 経営体

個人 2 経営体

集落営農（任意組織） 0 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

アンケート結果を踏まえると、「若年農業者が減少し、高齢化が進む」や「農地が利用されず耕作放棄地が増加する」等の回答が多数あり、将来の地域農業に対して不安を抱いている結果となった。今後、圃場整備事業により、不安視されていることを地域の中心経営体となる担い手に農地集積・集約化することで解消し、農業の維持・継続や農作業の効率化を図る。

笹川（寺井地区）において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

笹川（寺井地区）

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 1 経営体

個人 1 経営体

集落営農（任意組織） 0 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

地域の中心となる経営体に農地を集積・集約化し、農業の維持・継続を図る。

塚本町において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

塚本町

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 0 経営体

個人 1 経営体

集落営農（任意組織） 0 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

若年者の減少と高齢化が進む中で、約7割の方が将来的に担い手に預けたいとの回答であった。塚本町には地域外の担い手が存在しているので、今後その担い手に農地集積・集約していくことを検討する。

下七見町において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

下七見町

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 3 経営体

個人 2 経営体

集落営農（任意組織） 0 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

将来の地域農業の継続、あるいは発展を図っていくためには「今後の地域の中心となる経営体」に位置づけた担い手に農地を預けていくことが必要と考えるため、担い手へ農地集積していくことを検討する。

矢津農地保全会（集落協定）において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

矢津農地保全会（集落協定）

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 0 経営体

個人 0 経営体

集落営農（任意組織） 1 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

共同で支え合う集団的かつ持続可能な体制整備に取り組み、農業生産活動を継続することにより、多面的機能の発揮の促進を図ることとする。

飯高町下滝野虻野地区において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

飯高町下滝野虻野地区

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 3 経営体

個人 0 経営体

集落営農（任意組織） 0 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

地区の中心経営体及び入作を希望する認定農業者等があれば集積・集約化し、農作業の効率化を図る。また、近年増加しつつある獣害被害の防止にも対応していく。また、共同で支え合う集団的かつ持続可能な体制整備に取り組み、農業生産活動を継続することにより、多面的機能の発揮の促進を図ることとする。

山室町地区において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

山室町地区

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 1 経営体

個人 2 経営体

集落営農（任意組織） 0 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

中心経営体に集積・集約化し、農作業の効率化を図る。また、地域の認定農業者の育成も進めていく。尚、獣害被害の防止にも対応していく。共同で支え合う集団的かつ持続可能な体制整備に取り組み、多面的機能の発揮の推進を図ることとする。

松阪柑橘産地協議会において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき実質化された人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和4年3月24日

松阪市長 竹上 真人

1. 会合の対象とした区域

松阪柑橘産地協議会

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和4年3月18日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体数

法人 0 経営体

個人 6 経営体

集落営農（任意組織） 0 経営体

4. 今後の地域農業の在り方

維持すべき園地を中心に、中心経営体への園地集積、品種更新、優良果樹への改植等を行い、後継者もやる気の出る効率的な生産体制の構築を目指します。